

ブラックブック（年報）用原稿作成の手引き

IPPS-Japan

国際団体である IPPS の発表は、本来、英文フルペーパーとして年報ブラックブックに投稿することが義務づけられておりますが、日本支部の地域性に配慮し英文要旨のみの掲載も許可されております。ブラックブック原稿作成要領としての注意点を手引きとして以下に記しますので、原稿作成の参考にして下さい。詳細、不明な点については編集理事までお問い合わせください。

原稿サイズについて

英文要旨：本文はタイトル、所属、引用文献を含めて 350 word 以上
必要に応じて引用文献（LITERATURE CITED）を文末に付す
内容説明を助ける表、図、写真を必ず 1 枚以上付けること

フルペーパー：本文はタイトル、所属、引用文献を含めて 2000word 程度まで
図表あわせて 10 枚程度まで。（この量を超える時はあらかじめご相談ください）
詳細は後述

1. 送っていただく原稿のファイル（要旨、フルペーパー共通）

アルファベットで発表代表者氏名をファイル名とし、送ってください

- 例 ・本文ファイル（本文と引用文献など） Microsoft word で作成 → M_Tomita.doc (docx)
- ・表ファイル（必要な場合） Microsoft word もしくは Excel で作成
→M_Tomita_tables.doc (docx) あるいは M_Tomita_tables.xls (xlsx)
- ・図ファイル（必要な場合） 写真、図いずれも JPG ファイル
→M_Tomita_figure1.jpg, M_Tomita_figure2.jpg, M_Tomita_figure3.jpg....
- ・図の説明ファイル（必要な場合） Microsoft word で作成 → M_Tomita_figure_captions.doc (docx)

お送りいただくファイルは、最低 2 個（英文要旨で本文+表が 1 つの時）か 3 個（要旨本文+図+図説明）以上となります。

2. 本文の体裁について

英文要旨

- ・要旨タイトル
- ・氏名と所属
- ・本文
- ・引用文献（必要に応じて）の順序で書いて下さい。

本文に見出しは付けなくて下さい。付けて良い見出しは引用文献（**LITERATURE CITED**）だけです。

フルペーパー

1. (学術的) 論文形式で試験や調査結果を投稿される方

- ・論文タイトル
- ・氏名と所属
- ・要約（省略可）
- ・導入部（イントロダクション）
- ・材料及び方法
- ・結果及び考察（分割可）
- ・（謝辞必要に応じて）
- ・引用文献の順序で書いてください。

- ・要約（**Summary**）は見出し語を付けず、太字で氏名所属の後から1行空けて最初に書いてください。分量は200word程度。
- ・導入部（**INTRODUCTION**）は見出し語を付けても付けなくても構いません。
- ・材料及び方法：見出し語；**MATERIALS AND METHODS**（全て大文字で太字）を付けて下さい。
- ・結果および考察：見出し語；**RESULTS AND DISCUSSION**（全て大文字で太字）を付けて下さい。
- ・謝辞（**Acknowledgement**）必要な方は引用文献の前に書いて下さい。（頭文字だけ大文字で全て太字）
- ・引用文献：見出し語；**LITERATURE CITED**（全て大文字で太字）を付けて下さい。

2. 総説、視察報告、技術や品種の紹介等を投稿される方

原則として厳しい決まりはありません。学術論文の形式、見出しに従う必要はありません。導入（**INTRODUCTION**）と結び（**CONCLUSION**）の見出し語は、必要に応じて使って下さい（必須ではありません）。本文中に視察地名や品種名を見出しとして使っていただいても問題ありません。できるだけ図表や写真を活用して、読ませる工夫をお願いします。文献、資料を引用した時は、**LITERATURE CITED**で必ず示して下さい。

3. 本文はMicrosoft Word を使用してください。(要旨、フルペーパー共通)

- ① 用紙設定はA4 縦、書式設定で 40 字×40 行を用いて下さい。
- ② マージンは上下ともに 3cm、左右ともに 2.5cm をお願いします。
- ③ フォントは、半角英数は Times New Roman を用い、すべて 12 ポイントで設定して下さい。
- ④ 表題、発表者名、所属と代表者メールアドレスの記入例を下に示します

記入例

***In vitro* propagation of mango (*Mangifera indica* L.)** 表題太字
表題の後 1 行空ける
Takayuki Sakota, Haruka Nagano, Chitose Honsho and Takuya Tetsumura 名前太字
Faculty of Agriculture, University of Miyazaki
1-1, Gakuen Kibanadai-Nishi, Miyazaki, 889-2192, Japan
E-mail:●●●●@cc●●●●●.jp 代表者メールアドレス (必須)
本文の前 1 行空ける

複数の所属機関の方で発表された場合は、発表された方すべての所属機関を記入してください

記入例 (発表者所属が複数機関の場合)

Obtain of plantlets by flower bud culture and scape culture in *Primula kisoana* Miq. var. *shikokiana* Makino
表題の後 1 行空ける
Hiroaki Ohashi and Kaoru Akaboshi 最初の所属機関の方のお名前と所属
Faculty of Agriculture, Ehime University,
3-5-7, Tarumi, Matsuyama, Ehime 790-8566, Japan
E-mail:△△△△@agr.▼▼▼▼.ac.jp 代表者メールアドレス (必須) お1人だけ
1 行空ける
Yoshinori Ochi 2つ目の所属機関の方のお名前と所属
Seiko-en
1-8-10, Kokubu, Imabari, Ehime 799-1533, Japan
本文の前 1 行空ける

年報作成過程で必要に応じ、記載された代表者メールアドレスの方に作業上のお問い合わせをさせていただきますので、必ず連絡のつく方のアドレスを書いてください。

ご協力よろしくお願いします。

4. 本文作成上の注意点 (要旨、フルペーパー共通)

- 4-1. 本文で出てくる植物の名前は、初出 (最初の 1 回) は必ず学名 (字体はイタリック) を書き添えてください。なお学名には命名者名も省略せずにご記入ください。

例 マンゴー (mango) の場合、*Mangifera indica* だけでなく、*Mangifera indica* L.まで書く、等 (よくわからない場合は編集理事にご相談ください)

4-2. ご自身の専門分野、業界では常識的な用語・省略語でも、全く知らない人が読む可能性もあると考えて書いて下さい。

例 物質名としてのナフタレン酢酸 (NAA) を書く時は、初出は
1-Naphthaleneacetic acid (NAA) あるいは α -Naphthaleneacetic acid (NAA) と書く

4-3. 4-2 と同じく、ご自身の専門分野では常識的な処方等を引用する場合も、初出は省略せずに書き、本文最後に引用文献を付けてください。

例 組織培養の試験で WPM 培地を使った時、

本文中初出は **Woody Plant Medium (Lloyd and McCown 1981)** と書き、本文末尾に引用文献
Lloyd G. and B. McCown, 1981. Commercially-feasible micropropagation of mountain laurel, Kalmia latifolia, by use of shoot-tip culture. Comb Proc Intern Plant Prop Soc 30:421-427.
を付ける

4-4. 使用した資材等の販売会社名 (国名含め) など詳細も書いてください。

例 **Gordan** 社の商品名 **X-TRA** というロックウールキューブを使った
→ **rockwool cube (Grodan X-TRA, Grodania A/S, Denmark)**

例 和光純薬のジェランガムを使った
→ **gellan gum (Wako Pure Chemical Industries, Ltd., Japan)**

例 増殖培土はパーライトとピートモスを容量比 3 : 1 で配合して使った
→ **The propagation medium was a mixture of perlite and peat moss (3:1, v/v).**

4-5. 使った試薬、肥料等の資材についても会社名や組成などをできるだけ書いてください。

例 **Monterey** 社の **MT7210 (NPK=9-6-2)** という肥料なら
→ **Monterey MT7210 (9-6-2) (Monterey Lawn and Garden Products, U.S.A)**

4-6. 簡単な引用文献の書き方を示します。

書き順は (著者名、発表年、引用文献の表題、掲載された雑誌か本の題名 (+本の時は出版社名とその所在地)、掲載巻号、掲載ページ) です。引用文献は著者名のアルファベット順で並べてください。
わからないところはお問い合わせください。

↓引用文献の著者の1人目は名字が前、2人目以降は名字が後。名前だけ太字

Tomita, M., and H. Endo. 2007. Potential of neem extract for insecticide. *Com. Proc. Int. Plant Prop. Soc.* 56: 146-150.

↓著者が多くても **et.al** と略さず全て書いてください。本文中の引用は (**Xu et. al., 2005**) で結構です

Xu, Q., Barrios C.A., T. Cutright, and B.Z. Newby. 2005. Evaluation of toxicity of capsaicin and zosteric acid and their potential application as antifoulants. *Environmental Toxicology* 20(5):467-474

5. 表の作成について (要旨、フルペーパー共通)

(重要) 必ず、図や本文とは別のファイルにして送ってください。

表は、上記のマージンに収まる大きさの Microsoft word で作成するか、Microsoft excel で作成して送ってください。

表を本文の中に引用する場所を明記してください (記入例)



RESULTS AND DISCUSSION

The cuttings collected from the R-b root suckers tended to root better than those from the hedges (Table 1).

However, cuttings from the root suckers and hedges.

6. 図の作成について (要旨、フルペーパー共通)

(重要) 図は必ず、図の説明文とは別のファイルにして送ってください。

本部の編集作業工程で、図 (写真を含みます) と図の説明は別々に取り扱われています。図の説明は、全て figure_captions という word ファイル (.doc か.docx) にまとめ、送付してください。説明の書き方は原稿本文と同様です。

図と図の説明文が一体になった形の図は、ブラックブックで説明文が二重に表記されてしまうこととなりますのでご注意ください (作成例参照)。

図は、鮮明な JPEG 画像 (可能な限り 1 枚当たりの容量 1 MB 以下) の形でお送りください。

図の表記は基本的に Fig.1、Fig.2 と省略せず、本文中、図の説明すべて Figure と書いてください。ただし、本文文章中に図を明示しない場合は、Fig.と省略して、カッコ書きで図の番号を示して下さい。

全く同じ意味の文章でも、下の例文のように、書き方によって引用方法を使い分けてください

図を本文中に示す=省略しないで Figure と書く

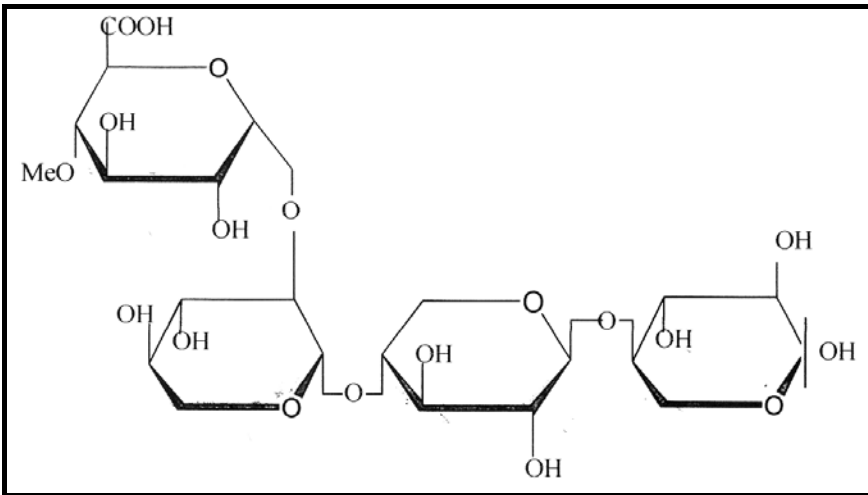
Figure 1 shows the flowering results for the low and high temperature treatments.

図を本文中に示さない=省略形で書いて、カッコ書きで示す

Low and high temperatures produced different flowering results (Fig. 1).

図は、ブラックブック掲載時はモノクロとなります。また、元画像ファイルが編集過程で加工され、品質劣化する場合もあり得ますので、あらかじめご了承ください。

作成例



← 図の本体（この黒枠内）の部分
をFigure1.jpgなど、1つのフ
ァイルとして作成・保存してく
ださい。この本体部分に説明文
は付けしないで下さい

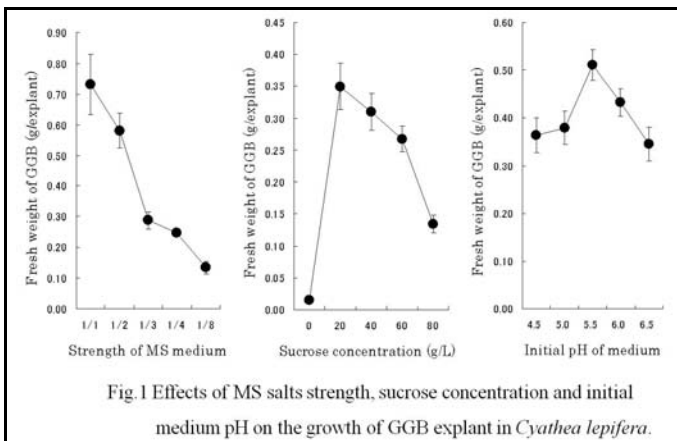
Figure 1 Chemical structure of aldotetrauronic acid.

↑ Fig.1 と省略しないでください

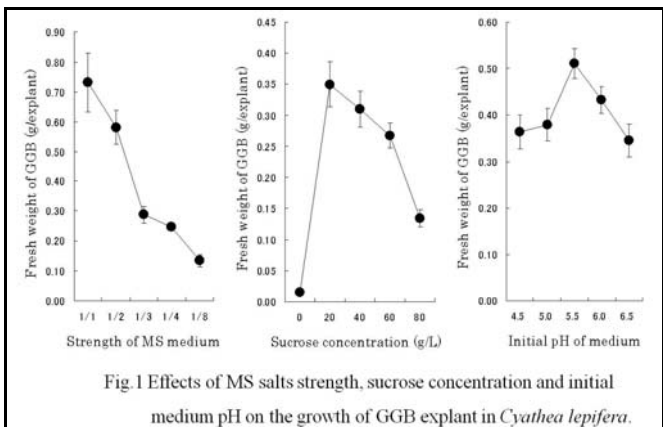
←図の説明文 他の図の説明文と一緒に
Figure_captions.doc ファイルとして別に
まとめてください。図の中に入れない

表と同様、本文中に図を引用する場所も明記してください。

作成例2



←図と説明が一体の画像の形
この形の図はそのままでは

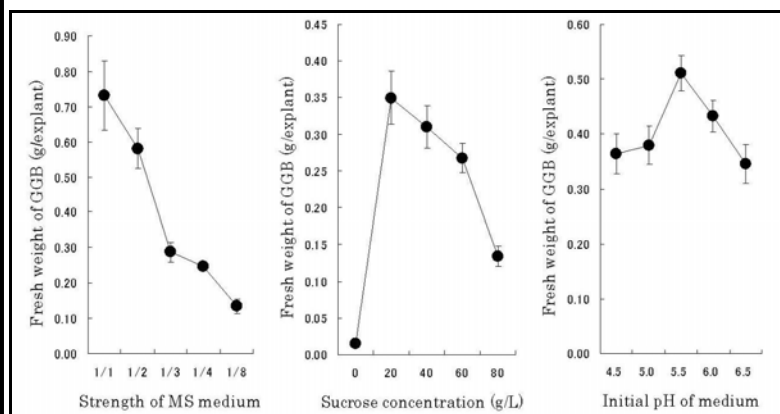


←ブラックブックではこの様に説明文
が2重表記されてしまいます
編集部でも時間の許す限り加工対応し
ますが、編集スケジュールの都合上、
対応しきれない場合も多くなります

Figure 1 Effect of MS.....

↑ こうなることを避けるため、図と説明文（タイトル）の分割送付をお願いします（次ページ）。

↓図の本体 (Figure1.jpg として保存、送付する)



図の説明文 (タイトル)
Figure 1 Effect of MS.....
は figure_captions ファイルに別に
保存、送付する

その他、ご不明な点は E-メールにて編集理事までお気軽にお問い合わせください。

IPPS-Japan 編集理事 富田正徳

tomita@ippsijapan.org

2001年6月19日作成

2007年8月30日改訂

2011年5月20日、7月10日、8月07日再改訂